

(社)日本原子力学会 標準委員会
発電炉専門部会 水化学管理分科会
第2回 PWR化学分析作業会 議事要旨

【日時】2008年6月16日(月) 13時30分～17時

【場所】日本原子力発電(株) 第9会議室

【出席者】(敬称略)

委員:水野<主査>, 笠原<副主査>, 大平<幹事>, 梅原, 大橋, 佐藤, 塚本
オブザーバ:久宗

【配布資料】

- P11WG2-1 第1回 PWR化学分析作業会 議事要旨(案)
- P11WG2-2 共通関連事項の草案
- P11WG2-3 分析精度の記載について(JISの記載例より)
- P11WG2-4 ほう素分析法の検討
- P11WG2-5 ほう素分析手順(案)
- P11WG2-6 水化学管理分科会 作業会 活動スケジュール(案)

【議事要旨】

議事に先立ち、主査より、委員7名中7名が出席しており、本会議が決議に必要な常定数を満足していることが報告された。

1) 前回作業会議事の承認

- ・資料 P11WG2-1 により、前回(第1回PWR化学分析作業会)の作業会の議事要旨(案)が大平幹事より説明され、承認された。

2) 共通関連事項

- ・資料 P11WG2-2 により、共通関連事項の記載について水野主査から説明され、以下の討議が行われた。
 - a) JIS B 8224 では、適用範囲や共通事項の中で、“試験方法”の記載があるが、これは表題の“試験方法”に基づくものと考えられる。これに対して、我々の意図する標準法は“PWR 分析法標準法”である。この箇所の記述について次の点を討議した結果、“分析法”と表記することで、全員が了解した。
 - b) 分析誤差については、別途討議することとなった。
 - c) 一部字句を訂正して、本資料の改訂版を水化学管理分科会に提出することとなった。

3) 分析精度

- ・資料 P11WG2-3 により、分析精度の記載について大橋委員から説明された。
 - a) JIS B 8224 で使用されている“繰返し精度”の規格が記載されている“JIS Z 8402-1”の表示を中心に、繰返し精度(併行精度とも表示、repeatability)、類似の表示で再現精度(reproducibility)の外、真値、偏り、変動係数等について討議された。

- b) 特に JIS B 8224 では、繰返し精度と表示されているので、類似の誤差表示である再現精度と併せて討議したが、この両事項(repeatability と reproducibility)については、ISO でも誤差規格として結論に到っていないのが現状であること判った。
- c) このような実状を踏まえて、分析に使用する計測器及び器具の誤差の積算で表示することとなった。

4) ほう素分析法の検討

- ・資料 P11WG2-4 により、ほう素分析法について笠原委員から説明された。
- ・ほう素の分析には種々の分析方法があり、状況に応じてどの方法を選択してもよいが、本作業会では、高濃度範囲を測定できる滴定法について作成することとなった。
- ・字句が訂正、追加されたが、基本的には原案が承認された。

5) ほう素分析手順(案)

- ・資料 P11WG2-5 により、ほう素分析手順について笠原委員より説明され、以下の改訂を行うこととなった。
 - a) 本法の適用範囲を明確する必要があるとの観点から、1行目の文章の最初に“一次冷却材及び二次冷却材の”を加える。
 - b) 通常の JIS では滴定液のファクターを用いて分析を行っているが、本法(ほう素分析手順)では、標準液のファクターである f_{KAP} : “KAP のファクター”を用いる。このため、本法では、 f_{KAP} の表示を滴定液のファクターである f_{NaOH} との混同を避けるため、標準液についてファクターではなく“KAP 標準液の濃度”とする。

6) 今後の予定

- a) 次回分科会への提出資料について
本作業会の議論を踏まえて、修正資料を作成して委員に送付し、了解を得た後、分科会に提出する。
- b) 次回の作業会は7月11日(金)に開催する。

以上